

2025年度「データサイエンスプログラム」に係る自己点検・評価

1. 「データサイエンスプログラム」の概要(科目構成)

「データサイエンスプログラム」は、データサイエンス科目(10科目)と学部で提供する科目(22科目)の2つの科目群で構成している。中心となる科目は、全学部1年後期履修必修科目「データサイエンス概論」(2単位、全編オンデマンド)であり、その他は全て選択科目(各2単位)である。本プログラムの修了要件は、「データサイエンス概論」(2単位)とその他選択科目2科目以上、計6単位以上を修得することである。また、本プログラムの対象者は、2024年度以降の入学生であるため、2025年度は配当年次が1年生と2年生の科目が該当した。

表1 データサイエンスプログラム科目一覧(各科目2単位)

No.	科目群	科目名	配当年次	補足
1	データサイエンス科目	データサイエンス概論	1・2・3・4	
2		情報処理入門	1・2・3・4	
3		統計学	1・2・3・4	
4		情報化社会と人間	1・2・3・4	
5		情報と知能	1・2・3・4	
6		応用統計学	1・2・3・4	
7		情報基礎演習	1・2・3・4	
8		情報応用演習	1・2・3・4	
9		プログラミング入門 (Python)(JavaScript)(マクロ言語)	1・2・3・4	2025年度開講
10		データサイエンス特殊講義 (データサイエンス入門・演習)	1・2・3・4	
1	学部で提供する科目	B4群特殊講義a (商学のためのデータ分析)	2・3・4	2025年度開講
2		データサイエンスとデータの収集方法	2・3・4	2025年度開講
3		社会学情報処理特殊講義I	2・3・4	2025年度開講
4		社会学情報処理特殊講義II	2・3・4	2025年度開講
5		社会学情報処理特殊講義III	2・3・4	2025年度開講
6		社会学情報処理特殊講義IV	2・3・4	2025年度開講
7		社会学情報処理特殊講義V	2・3・4	2025年度開講
8		社会学情報処理III	2・3・4	2025年度開講
9		社会学情報処理IV	2・3・4	2025年度開講
10		社会学情報処理V	2・3・4	2025年度開講
11		教育学特論VII(教育調査研究)	2・3・4	2025年度開講
12		英語研究特講(コンピュータと言語)	2・3・4	2025年度開講

13		計量経済学Ⅰ	3・4	2026年度開講予定
14		計量経済学Ⅱ	3・4	2026年度開講予定
15		情報社会概論Ⅰ	2・3・4	2025年度開講
16		情報社会概論Ⅱ	2・3・4	2025年度開講
17		基礎プログラミング	1・2・3・4	
18		人工知能	3・4	2026年度開講予定
19		環境統計学入門	1・2・3・4	
20		心理学統計法Ⅰ	1・2・3・4	
21		心理情報処理	2・3・4	2025年度開講
22		都市・地域戦略論	3・4	2025年度開講 履修年次が3年のため、2025年度の本プログラム対象者の履修なし

2. プログラムの履修・修得状況

2025年度の「データサイエンスプログラム」の対象者は、全学部の1年生1748名と2年生1487名の計3235名である。2024年度と2025年度の修了者数を表2に記す。なお、括弧内の数値は、学生数における修了者数の割合である。2025年度末時点で、対象学生のうち666名(20.6%)が本プログラムを修了した。現在の1年生と2年生は、2026年度以降も対象科目の履修が可能であるため、2026年度も修了者は増加する見込みである。

表2 データサイエンスプログラム修了者数

学部	入学年度 (学年)	学生数	修了者数		
			2024年度	2025年度	計
商学部	2024年度 (2年生)	309	33 (10.7%)	62 (20.1%)	95 (30.7%)
	2025年度 (1年生)	359		68 (18.9%)	68 (18.9%)
	計	668		130 (19.5%)	163 (24.4%)
人文学部	2024年度 (2年生)	292	18 (6.2%)	19 (6.5%)	37 (12.7%)
	2025年度 (1年生)	379		38 (10.0%)	38 (10.0%)
	計	671		57 (8.5%)	75 (11.2%)

法学部	2024年度 (2年生)	206	9 (4.4%)	22 (10.7%)	31 (15.0%)
	2025年度 (1年生)	245		22 (9.0%)	22 (9.0%)
	計	451		44 (9.8%)	53 (11.8%)
経済科学部	2024年度 (2年生)	239	92 (38.5%)	49 (20.5%)	141 (59.0%)
	2025年度 (1年生)	273		114 (41.8%)	114 (41.8%)
	計	512		163 (31.8%)	255 (49.8%)
人間環境学部	2024年度 (2年生)	108	2 (1.9%)	6 (5.6%)	8 (7.4%)
	2025年度 (1年生)	120		5 (4.2%)	5 (4.2%)
	計	228		11 (4.8%)	13 (5.7%)
健康科学部	2024年度 (2年生)	168	17 (10.1%)	10 (6.0%)	27 (16.1%)
	2025年度 (1年生)	186		64 (34.4%)	64 (34.4%)
	計	354		74 (20.9%)	91 (25.7%)
国際コミュニティ学部	2024年度 (2年生)	165	3 (1.8%)	7 (4.2%)	10 (6.1%)
	2025年度 (1年生)	186		6 (3.2%)	6 (3.2%)
	計	351		13 (3.7%)	16 (4.6%)
総計		3235	174 (5.4%)	492 (15.2%)	666 (20.6%)

3. 学修成果

1 年次後期履修必修科目「データサイエンス概論」では、全 1 年生および 2024 年度に単位未修得かつ 2025 年度に再履修を希望した 2 年生の計 2035 名が履修し、単位修得者数は 1380 名(履修者数の 67.8%)だった。学部ごとの内訳は、商学部は 285 名(74.6%)、人文学部は 298 名(69.0%)、法学部は 194 名(69.3%)、経済科学部は 231 名(69.6%)、人間環境学部は 77 名(51.7%)、健康科学部は 149 名(66.8%)、国際コミュニティ学部は 146 名(61.6%)だった。

4. 授業アンケートにおける学生の内容の理解度と後輩等他の学生への推奨度

2025 年度の「データサイエンス概論」の授業アンケートの結果は、受講者数 2035 名に対して 274 名(回答率 13.5%)の回答を得た。授業の興味・関心を問う設問では、「そう思う」と「ややそう思う」の肯定的な回答は 183(66.8%)、「どちらともいえない」は 42(15.3%)、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の否定的な回答は 49(17.9%)であった。また、授業の満足度を問う設問では、肯定的な回答は 184(67.2%)、「どちらともいえない」は 42(15.3%)、否定的な回答は 48(17.5%)であった。

また、本授業アンケートは本学の履修者 5 名以上の全授業を対象とし、学期末に全科目で同内容の設問を用いて実施している。後輩等他の学生への推奨度を問う設問はなく、当面は設問として追加する予定も今のところない。

5. 全学的な履修者数・履修者向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは 2024 年度から実施している。新入生のオリエンテーションにて、履修に関する補足資料等を配布することで、選択科目の履修率の向上を行っている。修了要件に必要な「データサイエンス概論」は、全学部の 1 年生を対象とした履修必修科目であるため、2024 年度に引き続き、2025 年度も本プログラム対象者の履修率は 100%である。

6. プログラム修了者の進路・活躍状況・企業等の評価および産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本プログラムでは各科目を履修することで、社会の変化やしきみ、ICT 利活用力、データ活用力、論理的思考等を身に付けることができる。これらを活かして、各学部の専門科目、各種課外活動、各地域活動、インターンシップ等に参画できると考えている。

2025 年度末時点では本プログラムを修了した卒業生はまだいないが、修了者の卒業後は、本学が企業に対して実施しているアンケート調査等の結果から、修了者の活躍状況や企業等の評価を分析する予定である。また、学内で実施した各調査結果等をもとに、情報教育運営委員会をはじめとした学内の会議等にて、プログラムの内容や手法について見直しと改善を行う予定である。

7. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることについて

本学は文系学生が多いため、データサイエンスを学ぶにあたり、1 年次前期に基本的な ICT 利活用力を身に付けることを推奨している。具体的には、選択科目「情報基礎演習」の履修を推奨しており、シラバスでは履修上の注意事項にデータサイエンスを学ぶ上で基礎を身に付ける必要性を記載している。また、2024 年度と同様に、本プログラム各科目の授業では、数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を説明し、できるだけかみ砕いた説明を繰り返し行うことで、これらを学ぶ楽しさをわかりやすく伝えられるよう

各教員が取り組んでいる。また、身近な事例や時事問題を取り上げる等、受講者の興味や関心が高められるような授業内容の提供にも取り組んでいる。

8. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすることについて

「データサイエンス概論」では、国内外の事例や時事問題等に加えて広島の実例も取り上げる等、受講者が身近な事案として捉えて興味や関心を持てる授業になるよう取り組んでいる。2025年度は、情報教育担当教員が週5コマ、TA・SAが週2コマの計7コマで対面でのサポート時間を設けることで、受講者の理解度の向上を図った。さらに、利用者数の増加を試みる取り組みとして、TA・SAにはサポート場所の案内やExcel補助資料の作成を行ってもらった。また、情報演習科目では、10名程度の教員でクラス分担をしているため、授業内容と水準の維持・向上を目的とした統一シラバスにて運用をしている。2025年度末に担当者ミーティングを実施し、各クラスの成績の分布状況等を共有した。情報教育運営委員会では、履修者数等をもとに次年度の開講クラス数や開講時限の調整を行った。

以上